

## 令和4年度 校内研修について

### 1 研究主題

対話を通して学びを深める児童の育成（3年次）  
～的確に読み取り 適切に表現する姿をめざして～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 学校の教育目標の具現化

本校は、「夢と自信を育み、知・徳・体の調和のとれた白水っ子の育成」という学校教育目標をもとに、「進んで学び続ける子」の「めざす児童像」を掲げ、教育活動に取り組んでいる。また、「チャレンジはくすい」をチャレンジ目標に掲げ、日常生活の中で子どもたちが意識して行動している。「はくすい」の㊦は「励まし合い」㊧「苦しい時も」㊨「すてきな仲間と」㊩「一緒にチャレンジ」である。励まし合い一緒にチャレンジする中で、児童が、相手の思いや考えを理解しようと受け止めたり、自分の思いや考えをもち、相互に伝え合おうとしたりして、さらに自分自身の考えを深め、わかり合おうとする力を高めていく。児童が対話を通して学び合う環境を設定し、より深い言語活動を進めて、確かな学力の定着に取り組んでいくことは、児童のコミュニケーション能力をはぐくみ、「生きる力」を身に付けさせていくことにもつながり、本校教育目標の具現化に寄与できると考える。

#### (2) 研究の経過と今年度の研修主題について

本校では、昨年度「対話を通して学びを深める児童の育成～対話の質の高まりをめざして～」を研究主題とし、学習力の向上を図ってきた。ブロック研修では、「児童同士の対話が生まれる発問や教材などの提示の仕方の工夫」「思考ツールの活用と板書の構造化」等に取り組んだ。その結果、自分の考えを伝えようとする意欲が高まったり、思考ツールを取り入れた授業が行われるようになったりした。また、学級内でフリートークを継続して行ったことで、より楽しい表現活動の場が定着し、児童の感じのよい話し方・聞き方が身に付きつつある。一方、基礎学力定着に向けた取組では、「学習規律の徹底」「家庭学習・自主学習の推進」「漢字の定着」「音読の工夫」「読書活動の充実」といった学習の土台を作る取り組みを行い、少しずつ効果が表れてきている。

一方で、授業の中で組織した対話が、表面的なものになってしまうこと、対話を通した学び合いが確かな学力に結びついていないことなど、課題も見られた。また、文章を読んで内容を的確に捉えることなどにも課題がある。

そこで、児童に身に付けさせたい力を「主張、根拠、理由を基に発言したり、話し合ったりする力」とし、並行して読み取る力も付けつつ日々の授業や校内研修を通して育てていきたい。

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）を身に付けることをめざしている。また、各教科における「見方・考え方」を働かせた学びを通して、資質・能力が生まれ、それによって「見方・考え方」が更に豊かなものになるとしている。

そこで、今年度も「対話を通して学びを深める児童の育成」を研究主題とし、「的確に読み取り 適切に表現する姿をめざして」を副主題に設定した。主張、根拠、理由を基にした児童相互の交流の質を高め、対話を通した学び合いの中で確かな学力を身に付けていくための手法や視点を研修によって明らかにすることで、児童の資質能力を育成していきたい。また、引き続き課題

となっている読み取る力や基礎学力の定着を図っていくことも視野にいて研修を深めていくこととする。

### (3) 児童の実態から

本校の児童は、明るく元気なあいさつができ、素直で何事にも一生懸命取り組むという良さが見られる。全校児童64名という少ない人数を生かし、授業や学校行事等で一人ひとりの児童が活躍する場も多い。自分の思いや考えを発表する機会を多く設けることで、話すことへの抵抗は少なくなってきた。また、フリートークや学校行事での感想発表等を行ってきたことも、効果的であった。各学級においても、自分の考えを伝えようという姿が多く見られるようになった。一方で、授業中、主体的に話し合う姿には物足りなさを感じられる。内発的な解決意欲が十分湧かないまま、なんとなく活動している姿が見られる。児童の発言が教師に向けて行われることが多く、子ども同士の対話による深い学びができていない状況とはいえない。

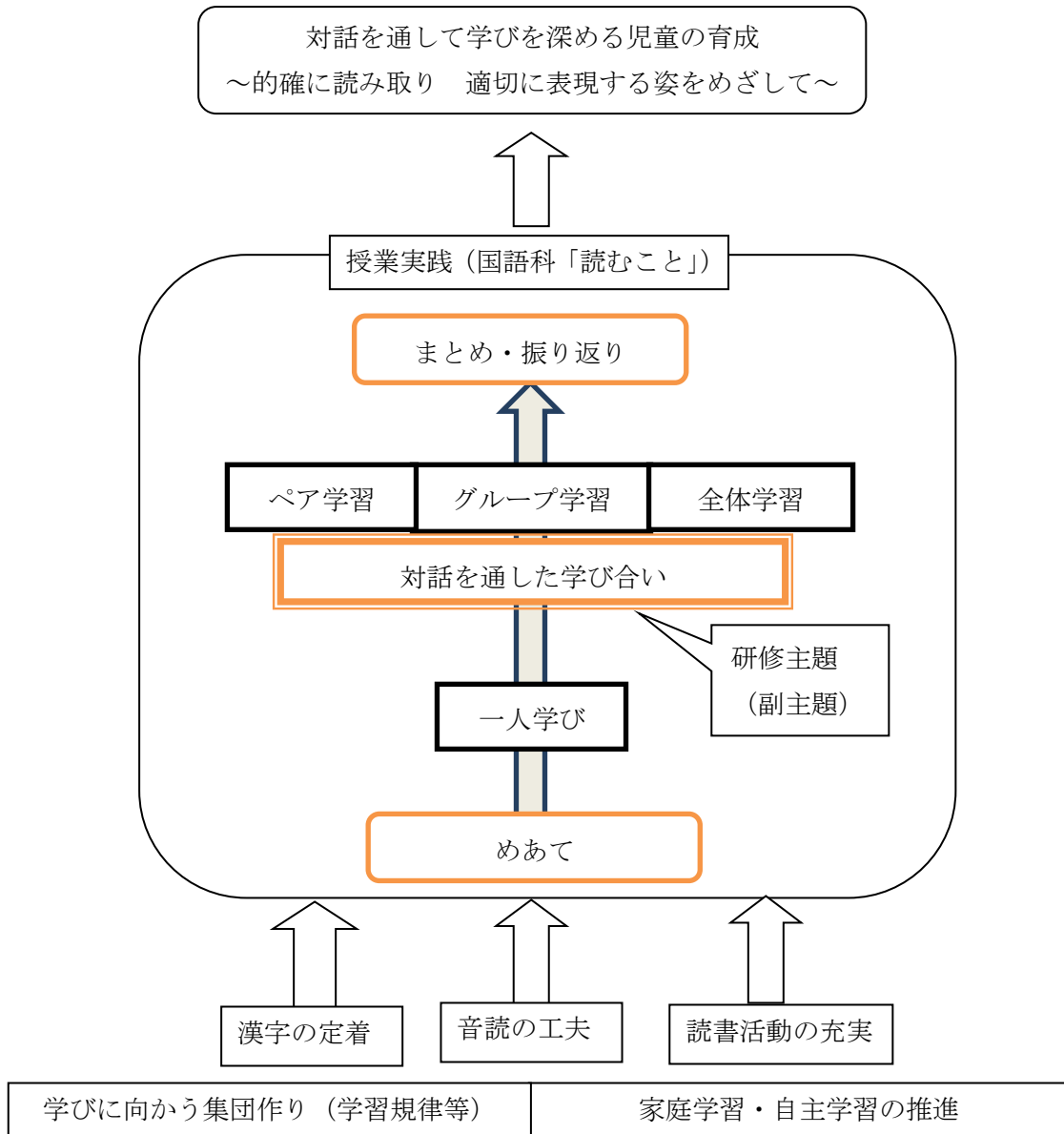
また、昨年度に実施した全国学力・学習状況調査では、「読むこと」に関する問題で正答率が低かった。授業の中でも、問題意図に応じて自分の考えを述べることなどに課題があり、それが児童相互の対話を難しくしている。また、日常的に朝の図書室利用が多いものの、読書傾向に偏りが見られたり、学年相応の選書ができていなかったりすることも、その一因と考えられる。

そこで、今年度も昨年度に引き続き、国語科を中核として「読むこと」の指導事項を教師が明確にもち、読む力を育てる言語活動の充実を図りたいと考えた。より深く学ぶ力を付けた児童の姿について共通理解した上で、対話をどのように仕組んでいくかを考えていく必要がある。また、児童一人ひとりがより深く考えるために、言語能力の育成をめざしていくことも大切であると考ええる。「読むこと」の学習を通して授業研究を行うとともに、読書や漢字の習熟といった基礎学力の定着に向けた取組も行っていきたい。

## 3 めざす子どもの姿

	低学年	中学年	高学年
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人を見て、最後まで聴く。</li> <li>・文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合い、自分の思いや考えをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで感じたことや考えたことを伝え合い、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付き、自分の思いや考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んでまとめた意見や感想を伝え合い、互いの考えを認め合ったり、比較して違いに気付いたりすることを通して、自分の思いや考えを広げる。</li> </ul>
国語科 「読むこと」 の力	<p>(説明的な文章)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○共通や相違に気付くこと。</li> <li>○時間的な順序や事柄の順序を考えること。</li> <li>○重要な語や文を考えること。</li> </ul> <p>(文学的な文章)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○場面の様子を捉えること。</li> <li>○登場人物の行動を捉えること。</li> </ul>	<p>(説明的な文章)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○段落相互の関係を捉えること。</li> <li>○考えとそれを支える理由や事例の関係を捉えること。</li> <li>○中心となる語や文を考えること。</li> </ul> <p>(文学的な文章)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物の行動や気持ちを捉えること。</li> <li>○登場人物の気持ちの変化や性格を想像すること。</li> <li>○情景を捉えること。</li> </ul>	<p>(説明的な文章)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事実と感想、意見の関係を捉えること。</li> <li>○構成を捉えて、要旨をまとめること。</li> <li>○必要な情報を見つけたり、論の進め方を考えたりすること。</li> </ul> <p>(文学的な文章)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物の相互関係を捉えること。</li> <li>○登場人物の心情を捉えること。</li> <li>○描写を捉えること。</li> <li>○表現の効果を考えること。</li> </ul>

#### 4 研究の焦点化



#### 5 授業研究の進め方

- ① **ねらいを具体化・焦点化して設定する。**
- ② **ねらいに到達した子どもの姿（言動）を想定する。**
- ③ **子ども全員がねらいを達成するための指導の工夫と、個別の配慮を計画する。**
- ④ **授業を行う。**
- ⑤ **授業をふりかえる。**

それぞれの手順や行い方について述べていく。

##### ① **ねらいを具体化・焦点化して設定する。**

その単元・題材、本時で子どもに身に付けさせたい力や学習内容を「教材の特性」「学習指導要領の指導事項」「子どもの実態」をふまえて、焦点を絞って具体的に設定する。ねらいが明確であり、学習内容をシンプルにすることが大切である。

## ② ねらいに到達した子どもの姿（言動）を想定する。

その単元・題材・本時において、実際に見られるようにしたい子どもの姿（言動）を具体的に想定することである。「子どもがねらいに到達したとは、どのような姿（言動）か」「子どもが学習内容を獲得したとはどのような姿（言動）か」が具体的に表される必要がある。

## ③ 子ども全員がねらいを達成するための指導の工夫と、個別の配慮を計画する。

みんなが参加し、対話を通して学びが深まったと実感する授業にするためには、「指導の工夫」と「個別の配慮」の二段構えが必要となる。「指導の工夫」とは、これまでの授業の在り方を見直して、誰もがよくわかる授業にするには、どんな工夫が必要なのかについて探る授業改善である。「個別の配慮」とは、いくら指導を工夫したとしても取り組むことが難しい子どものための個別の配慮のことであり、授業のねらいを達成するために、必要に応じて個別指導をするということである。

## ④ 授業を行う（研究授業の行い方）

### ●講師招聘授業の場合

\*授業者は指導案（板書計画も）、座席表、教科書指導書のコピー、板書計画、ワークシート、提示資料等を準備する。

### ●公開授業の場合

**講師招聘授業を行わない者は、1人1回以上の公開授業を行う。**

1週間前までに、「○月△日☆校時 名前 国語」と計画を和田まで知らせる。

\*公開授業は全員参観する。（「前半だけ」や「主活動だけ」でよい。）

## ⑤ 授業をふりかえる（事後検討会の行い方）

- ・講師招聘授業では、校内授業研究会の中で「研究協議」を行う。
- ・公開授業では、参観した感想を書いて授業者に渡す

## 6 研究の視点と本年度の取組

### （1）児童相互の対話の質が高まる授業展開

○児童同士の対話が生まれる発問や教材などの提示の仕方の工夫

- ・導入時に児童の学習の見通しをもたせたり、児童の興味・関心を引き出したりするもの
- ・教師と児童、または児童同士の共通点やずれを焦点化した問題を生み出すもの
- ・児童の考えを明確にしたり、より妥当な考えをつくりだしたりしていくもの 等

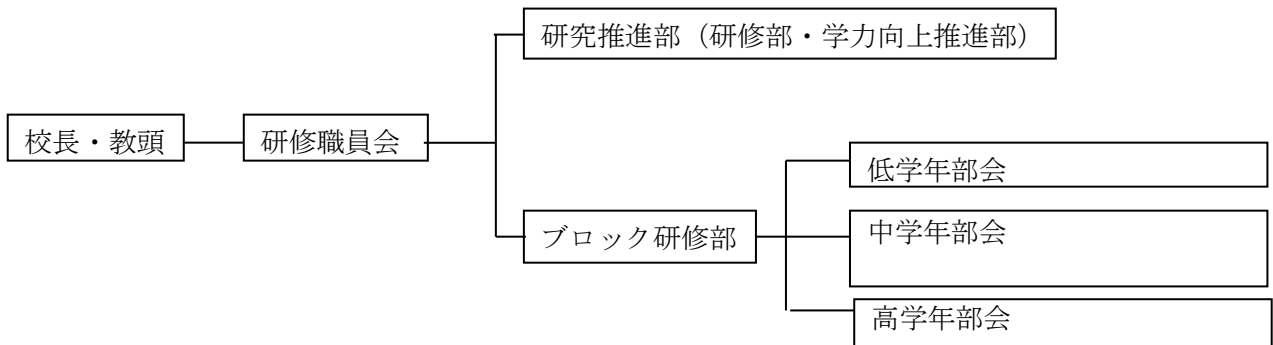
○思考ツールの活用と板書の構造化

- ・思考ツールの効果的な活用
- ・児童の考えや発言を本時のねらいと関連付けながら構造的に板書していくことによって、児童が意見交換や議論するための思考のツールとして効果的に生かせるような板書計画を作成する。

### （2）基礎学力の定着に向けた取組

- 各学年の学力の分析
- 学習規律の徹底
- 家庭学習・自主学習の推進
- 漢字・音読・読書活動の充実
- フリートークの実施

## 7 研究組織



### 研究推進部

- ・ 研修計画・検証
- ・ 全校フリートークの計画

### ブロック研修

- ・ 各学年国語科の授業研究の実施
- ・ 指導案の検討、資料作成
- ・ 教材の共同開発
- ・ 研究授業の準備と協力等
- ・ 基礎学力の向上に向けた取組

## 8 研修計画

月	日	研 修 内 容
4	20 (水)	<b>研修職員会議①</b> 今年度の研修課題と取組について (研究主題・副主題の確認) 今年度の研修計画 (授業者決定)、指導案様式の決定
5	25 (水)	<b>研修職員会議②</b> 各学年の学力向上プランの確認 共通理解事項の確認
6	8 (水)	<b>研修職員会議③</b> 基礎学力向上の取組 (1学期前半の振り返り)
8	22 (月)	<b>研修職員会議④</b> 全国学力・学習状況調査について 基礎学力向上の取組 (1学期の振り返り・2学期に向けて) 夏休み各研修会の復伝
8	24 (水)	<b>研修職員会議⑤</b> 保健関係 (エピペン・アクションカード等) 第1回指導案検討会 校紀保持研修
9	14 (水)	<b>第1回授業研究会 (6年) 講師招聘</b>
10	19 (水)	<b>第2回指導案検討会</b>
11	2 (水)	<b>第2回授業研究会 (4年) 講師招聘</b>
1	25 (水)	<b>第3回指導案検討会</b>
2	8 (水)	<b>第3回授業研究会 (2年) 講師招聘</b>
3	8 (水)	<b>研修職員会議⑥</b> 学力向上プラン評価、今年度の研修の総括と来年度の方向性について